

行事 卒業生や家族も共に参加してもらいます。

4月 第1(土)	入園式
4月 第3(日)	高尾山ハイキング
6月 第1(日)	運動会・バザー
11月 第3(日)	マラソン大会
1月 第3(日)~(月)	成人式強歩大会
3月 第3(土)	卒業式



製品

この製品はすべて光の村の園生が作っています。「知的障害者は教育次第で強く、賢く自立する」という光の村の主張をご理解いただければ幸いです。

製パン・製菓部

良い材料とすぐれた技術で心を込めて焼き上げた品々です。ご賞味ください。



紙器製造部

ひとつひとつ、手張りの高級仕上げです。



施設概要

障害者支援施設 千葉光の村授産園(昭和63年4月1日開園)

【設置運営】 社会福祉法人首都圏光の村

【施設所在地】 〒265-0046 千葉県千葉市若葉区小間子町1番8

【定員】 55名

TEL(043)228-5300 FAX(043)228-5400

E-mail c-hikari@hikarinomura.co.jp

URL <http://www.hikarinomura.com>



入園の対象者

18歳以上の知的障害者

(15歳以上18歳未満の者は、児童相談所が適当と認めた者)

※早期教育を原則とし、特別支援学級・学校の新卒業生を主体に受け入れます。

費用

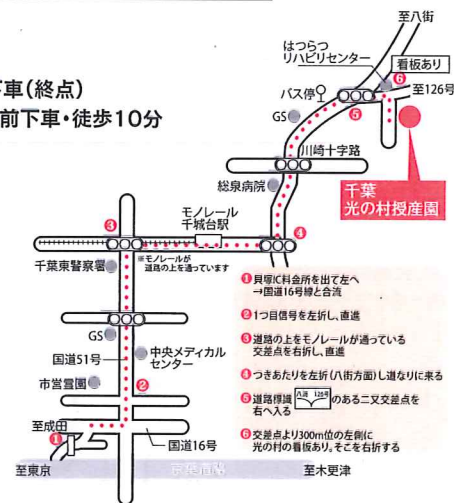
本人又は扶養義務者の課税状況に応じて利用者負担があり、毎月当施設に支払う。
(詳しくは最寄りの福祉事務所もしくは障害福祉課にお問い合わせください)

交通

JR千葉駅発(モノレール)→千城台駅下車(終点)
→千城台駅発(おまごバス)→県射撃場前下車・徒歩10分

<交通機関>

- JR千葉駅発(モノレール)→千城台終点下車
- 千城台発(おまごバス)内小間子行き(3番線)
→射撃場前駅下車(徒歩10分)



社会人として生涯、地域で「明るく」「たくましく」「いきいきと」暮らすことをめざす

授産園の目的

千葉光の村授産園は、中学部特別支援学級・特別支援学校に続く学校後の学校として運営し、家庭と協力して能力に応じた年数で社会適応を図る。

全寮制で24時間支援を行なう。

家で暮らせる力がついたら通所支援をする。

教育の内容は「暮らし・体・仕事」の3本柱で構成する。

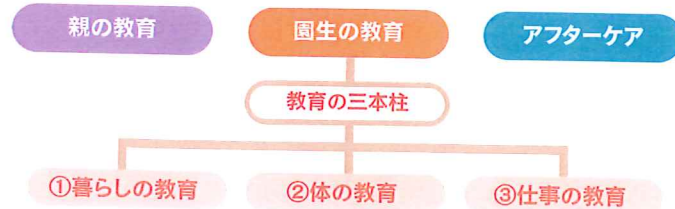
毎週末は家庭学校として、園と同じ様な生活を家庭でも定着させると共に、親の教育力を高める。

事業内容

- ・障害者支援施設
- ・特定相談支援事業

- 施設入所支援事業（定員：50名）
身辺、衣食住の全面的な自立にむけた支援を行います。
- 自立訓練（生活訓練）事業（定員：10名）
生活面での自立に向けた初段階の訓練を行います。
- 生活介護事業（定員：20名）
自立した日常生活、社会生活が営むことができるよう支援をし、地域生活の実現を目指します。
- 就労継続支援（非雇用型）（定員：25名）
継続的な生産活動の場の提供を行い、就労にむけた支援を行います。
- 特定相談支援事業
日常生活全般に関する相談、サービス利用計画の作成を行います。

教育内容

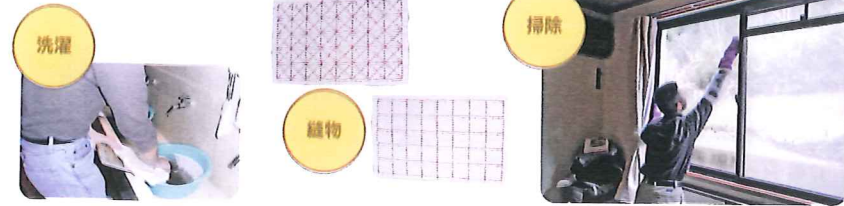


①園生の教育

①暮らしの教育

身辺の自立が強く、賢く、豊かに生きる基本となる

良い仕事は、よい暮らしから。
毎朝、同じ時間に自分から起き、入浴、掃除、洗濯、縫物などを繰り返して行い、自分の暮らしは自分で築く。



②体の教育

良いからだ作りは自立の基本

よく歩き、よく走ることを基本に、基礎的な体力作りを毎日行い、社会の中で堂々と、生涯元気に生きていくことを目指す。



③仕事の教育

質の高い仕事を目指して

園内実習、園外実習を通して、8時間労働を遂行する体力、気力、持久力を育て、時間、金銭計算の能力を育てるために、クラス制をとり、担任ができるようになるまで、つきっきりで手を取って教え続ける。

【一年生クラス】

31mの床を走り拭きする。足腰や指先・手先の力がつき、気力、根気強さ、集中力も身につけて、仕事への意欲も持てるようになり、基礎クラスに入っていく。



仕事に向き
・やり遂げ
・返事、挨拶
・準備、後始末
・指示を聞き

毎朝、早くから
りしている。
衛生面に気
る時間に遅
手作りのバ

②親の教育

【家庭学校】
園で身に付
【父母会】
【親子合宿】
【家庭訪問】

③アフター

卒業後は親が
ただし、園と
どこまでも親